



慶應義塾大学ビジネス・スクール

日本企業の決算報告 2004

< a >

以下に掲げる財務諸表は、現在を代表する日本企業の 2003 年度の決算報告（セブン-イレブン・ジャパンは 2004 年 2 月期、ライブドアは 2004 年 9 月期、その他は 2004 年 3 月期）です。ただしいずれも、商法上の決算公告と同等レベルの簡潔なものです。この程度の要約財務諸表から、それぞれの企業の体質的な特徴をどのくらい読み取ることができるのでしょうか？

現実の世界で見かけるそれぞれの企業の製品、サービスや店舗、新聞紙上などで見聞きする情報などをすべて思い起こしながら、企業の実態について推論をめぐらせてください。

（注）財務諸表中の金額単位は E 社を除きすべて十億円である。E 社のみ百万円単位。

【設問】

(1) A 社から G 社は、下記に掲げた企業のいずれかに対応します。財務諸表を眺めた上で、どの企業に対応するものか、線で結んでください。

- | | | |
|-----|---|-------------------|
| A 社 | ・ | ・(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ |
| B 社 | ・ | ・(株)ライブドア |
| C 社 | ・ | ・ソニー(株) |
| D 社 | ・ | ・(株)セブン-イレブン・ジャパン |
| E 社 | ・ | ・トヨタ自動車(株) |
| F 社 | ・ | ・武田薬品(株) |
| G 社 | ・ | ・(株)武富士 |

(2) これらの財務諸表から、それぞれの企業の事業構造や体質上の特徴、経営戦略などに関して、思いつくものをすべて挙げてください。

このケースは慶應義塾大学ビジネススクール 山根 節がクラス討議の資料として作成した。

（協力：M25 杉山大輔 2005 年 4 月作成）